

第1号議案 令和元年度事業活動報告に関する件

令和元年度事業活動報告

1 活動の成果と課題

平成30年度は報酬単価の実質的低下および利用者減により厳しい経営であったが、元年度は就労支援事業所、グループホームともに改善の傾向が見られた。活動内容では「わっくわくまつり」「ソーシャルフットボールともにカップ」「ともに講演会」などを企画した。わっくわくまつりにおける高校生ボランティアの多数参加など、あらたな広がりを見せている。

法人での情報共有が不足していることにより、他機関との連携や企画の周知が至らない部分があった。今後の事業を広げる意味で次年度への課題である。

今年に入って新型コロナウイルス感染症の拡大防止として各事業で対策をおこなっている。今後対策と運営維持のバランスを保っていくためにさらなる対策が必要となっている。

2 事業

- (1) 障がい者就労支援事業所ワークショップようていの運営 【個別事業報告1】参照
 (2) グループホームよろこびの運営 【個別事業報告2】参照
 (3) K.S.C. Juntos の運営 【個別事業報告3】参照

3 活動

(1) 精神疾患や障害に関する理解と交流、広報活動

＜講演会・研修会＞

活動内容	実施回数および実施月日	実施場所	のべ 参加人数
みんなで学ぼうシリーズ	月1回(全12回)	喫茶陽だまり	152人
	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は倶知安厚生病院の医師7回、ソーシャルワーカーが2回、作業療法士が1回、複数講師の座談会形式を2回開催 ・1回あたりの平均参加者数は12.6人 		
たね塾	5月～11月の月1回(全7回)	わっくわく	85人
	<ul style="list-style-type: none"> ・定員15人のところ申込者は16人、一回の平均参加者数は12.1人 		
くらっぴ [倶知安 WRAP (元気回復行動プラン) 勉強会]	偶数月第4水曜日(全6回)	倶知安厚生病院	13人
	<ul style="list-style-type: none"> ・1回あたりの参加者数は2～3人 		
ともに講演会 「高齢ドライバー問題から生活環境を考える」	11月23日	ホテル第一会館	18人
	<ul style="list-style-type: none"> ・町広報折り込み、インターネット等で告知するも18人の参加にとどまる ・その一方交通安全協会など新たなネットワークを構築できた 		
こころのルネッサンス& キャンプ(小樽市)	8月31日～9月1日	小樽自然の村	97人
	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人MiMaTa主催、当法人は後援 		

<広報活動>

活動内容	実施回数	特記事項
広報紙「通信ともに」発行	全 10 回	・毎月発行を目指していたが、発行は10回にとどまった。 ・家族会解散やSNSでデータ配布により、1回の発行部数は400部→300部に削減した。
ホームページ更新	不定期	・主にデータの修正
ブログ更新	不定期	・年度後半は更新が滞ることがあった
SNS活用検討	実績なし	・検討したが実現できていない
記事の掲載依頼促進	2回	・北海道新聞後志版に「ともに講演会」お知らせ記事 ・紀行雑誌「じゃらん」3月号にカフェの記事

(2) 地域内外の福祉関係団体との連携活動

団体名	形態	活動内容
羊蹄山ろく地域自立支援協議会	参加	・毎月の定例会に参加 ○相談支援事業担当者会議 ○就労支援部会 ○地域活動支援センター「夢の匠」サポート部会 ○知ってる会?
羊蹄山麓障害支援区分認定審査会	推薦	・羊蹄山ろく地区の障がい者支援区分審査
後志圏地域生活移行支援協議会	委嘱	・ピアサポーターに関する会議
倶知安町福祉フォーラム	参加	・映画「長いお別れ」上映→感染予防のため中止
後志圏障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会	委嘱	
後志保険医療福祉圏域連携推進会議	委嘱	
倶知安町障害者施策推進協議会	推薦	
一般社団法人北海道精神保健福祉士会	理事	

(3) 講師派遣活動

派遣先	月日	派遣場所および内容
北海道文教大学	6月7日	北海道文教大学「地域作業療法学演習」
京極町社会福祉協議会	7月24日	京極町福祉センター「法人内研修 個人情報について」

(4) 組織の安定化、拡充活動

正会員	21人(+1人)
賛助会員	個人83人(-8人)、団体6団体(+3団体)

(5) 助成金の活用

助成団体	金額	利用用途
軽減税率対策補助金事務局	28,276円	消費税増税に伴うレジスタ購入助成

(6) 認定NPO法人活動 ・控除対象寄付金受領証明書の発行…個人7人、団体4団体

(7) わっくわく地域開放 ・実績なし

(8) 借入金返済について ・計画通り借入金返済をおこなっている

【個別事業報告1】

令和元年度

障がい者就労支援事業所ワークショップようてい（WS） 事業活動報告

1 活動の成果と課題

平成30年度に減少した利用登録者数は大幅に回復し、訓練等給付費収入は改善している。

就労移行支援では4人就職でき、就労継続支援B型でも平均工賃月額が1万円を超えたことで、工賃額で決まる次年度の給付費増額が可能になった。

支援面では、利用者に対し定期的なモニタリングや毎朝の職員ミーティングで情報共有に努め、その人に合った支援をおこなうことで支援の方向性が確立してきた。一方で事業所間や外部との情報共有についてはまだ改善の必要性がある。

新型コロナウイルス感染症の流行拡大防止対策として職員間の協議を密におこない、消毒の徹底と予防の方針を確認している。

2 令和元年度利用実績（カッコ内は前年度比）

	就労移行支援	就労継続支援B型
年開所日数	263日	263日
年のべ利用者数	709人(+327人)	3,393人(+289人)
一日平均利用者数	2.7人(+1.3人)	12.9人(+1.4人)
3月末時点の利用登録者	2人	23人
新規登録者	3人	8人
退所者	4人[うち就職4人]	2人[就職者なし]

3 令和元年度就労支援事業会計決算

収入の部			
科目	合計	前年度比	解説
売上（カフェ）	1,426,790	+216,230	
売上（調理部その他）	1,563,744	+61,236	WS利用者向け昼食、イベントほか
売上（製造部）	668,230	-255,370	手工芸品売上
売上（農業部）	329,665	+10,021	野菜販売売上
施設外作業収入	36,286	+36,286	利用者が事業所外作業したときの収入
委託料	1,814,583	-36,813	調理、除雪、清掃、施設管理など
宅配便送料	20,009	-7,260	
補助金	28,276	+28,276	調理部レジスター購入補助金
その他収益	17,611	+5,460	受取利息、石けん売上ほか
収入計	5,905,194	+58,086	

支出の部			
科目	合計	前年度比	解説
原価材料費	1,947,355	+225,168	手工芸材料、農作物種子など
消耗品費	510,061	-105,358	
研修費・開発費	46,940	-16,060	各部商品開発研修、商品開発
設備備品費	80,817	-435,058	作業用テーブル、農具、除雪器具ほか
水光熱費	126,327	+8,247	調理部、カフェ
車両費	175,885	-42,315	トラクター、タイヤショベル維持管理
その他経費	98,651	-12,074	各種手数料、宅配便送料など
利用者工賃・賞与	3,476,780	+963,020	
支出計	6,462,816	+747,142	

収支差額	-557,622
前期繰越正味財産額	1,386,350
当期正味財産合計	828,728

4 利用者への工賃支払状況について

○工賃平均月額…11,794 円（前年度比 +3,373 円）

○工賃平均時給額…302.9 円（前年度比 +73.9 円）

	計	前年度比
工賃総支給額	2,712,526 円	+1,171,426 円
のべ支給利用者数	230 人	+47 人
のべ作業時間数	8,954 時間	+2,232 時間

5 事業活動およびその件数

内容	件数	解説
①就労のための研修	13 件	利用者向けに「就労支援トレーニングプログラム」を実施
②就職活動 ・ 職場実習 ・ 職場見学	3 件 5 件	
③販売活動 ・ 委託販売 ・ 各町村祭り出店	4 件 1 件	木ニセコ、元気ショップ、元気ショップいこ～る、 コープさっぽろ倶知安店 倶知安 1 回、京極 2 回
④利用者研修	3 件	見学研修など
⑤交流・レクリエーション	3 件	花見会、ウォーキング、納会
⑥地域活動	1 件	赤い羽根街頭募金、
⑦事業所見学件数	1 件	羊蹄セルブ
⑧職員資質向上研修	4 件	所内研修
⑨防災対策	2 件	防災訓練（地震・洪水）、火災訓練各 1 件

【個別事業報告2】

令和元年度 グループホームよろこび（GH） 事業活動報告

1 活動の成果と課題

元年度は新規入居者が3人増え合計 22 人と満室になった。訓練等給付費が増加し経営安定に貢献することができた。一方で職員不足により職員に希望通りのシフトを組むことが難しい時期があった。またグループホームを離れて一人暮らしが可能な入居者が家賃の高騰といった経済的理由によりグループホームを「卒業」することができていない現状の難しさがあった。

職員間や事業者間での情報の共有が十分でなく、支援の一貫性に欠けることもあった。今後情報共有の機会を作る努力と、より意見を交わせる機会を意識的に増やす取り組みが必要である。

今年1月以降の新型コロナウイルス感染症に対し、厚労省の指針に基づき面会制限や「三密」の防止、消毒対策などの努力を続けている。

2 令和元年度利用実績（カッコ内は前年度比）

年開所日数	366日
年のべ利用者数	7,382人(+607人)
3月末時点の利用登録者	22人
新規登録者	3人
退居者	0人
見学者	1人

入居者の利用区分 (3月末現在)	
非該当	2人
区分1	9人
区分2	9人
区分3	2人
区分4	0人
区分5	0人
区分6	0人

3 事業活動

月日	活動種別	活動内容
4月20日 10月22日	行事	買い物レクリエーション
6月13・16日	防災対策	防災訓練（5住居を2日に分けて実施）
7月4日	行事	GH, WS合同焼肉交流会
9月7日	行事	わっくわくまつり出店
11月21日	防災対策	火災訓練

4 入居者利用料の収支報告および清算について

- 入居者から徴収している利用料の収支報告および清算がこれまでできていなかったことから、札幌や道外グループホームの情報収集と税理士の助言を受け、毎年の清算を徹底することにした。
- グループホーム会計に「利用料会計」を新設し、グループホーム会計から分離した
- 返済方法と返済額は次年度の課題である

【個別事業報告3】

令和元年度 K.S.C. Juntos 事業活動報告

1 活動の成果と課題

元年度は「ソーシャルフットボールともにカップ」を初めて京極町で開催し、羊蹄山ろくで当活動の認識を広めるきっかけとなった。また2人の選手が、大阪市でおこなわれた「第3回ソーシャルフットボール全国大会」の北海道代表チーム「リベルダージ北海道」の一員として参加した。道外のソーシャルフットボール熱を感じて帰ってきたことは、当チームにとっても大きな収穫であった。

今年1月以降流行している新型コロナウイルス感染の対策として、2月以降練習を中止した。道内の大会も相次ぎ中止され、選手のモチベーション低下が目下の課題である。また異動等により会員が減少しており、選手やサポートスタッフの拡充が急務である。

2 活動内容およびその件数

月日	活動内容	活動場所	参加人数
毎週火・金	公式練習・練習試合	旧東陵中学校体育館 倶知安町立西小学校	4～8人
5月18日	地域合同練習 in 滝川	滝川市ホーダスタジアム	6人
6月23日	ソーシャルフットボールチャンピオンズカップ	札幌東区体育館	8人
7月30日	選手・スタッフミーティング	わっくわく食堂	10人
9月6日	わっくわくまつり	わっくわく会場	4人
9月7・8日	第3回ソーシャルフットボール全国大会	丸善インテックスアリーナ大阪	2人
10月26日	第4回ソーシャルフットボールともにカップ	京極町体育館	7チーム 60人
12月21日	ソーシャルフットボールサポーターズカップ	札幌東区体育館	9人
3月21日	ソーシャルフットボールサポーターズカップ in 芽室	芽室町	(中止)

※わっくわくまつりではピン倒しゲームと募金を実施。2,397円集まった。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の一環として、2月25日以降の練習を中止した。

3 会員数（3月末現在）

当事者会員	13人
サポートスタッフ	18人
チームサポーター	2人
スポンサー会員	4人・団体